

今月のおもな記事

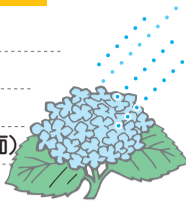
参議院選挙へ行こう!!特集

白神弁護士講演(1面)

6・12県民大集会(1面)

安倍政治へのレッドカード!(2・3面)

民医連職員、熊本支援へ(4面)



# 長野県民医連

長野県民主医療機関連合会  
2016年6月25日 第306号

事務局

〒390-0803 松本市元町2-9-11 民医連会館2F

☎0263-36-1390 FAX 0263-33-1229

Eメール kikanshi@n-mr.com

URL http://www.mintyo.or.jp/min-iren

[月1回25日発行 定価100円・加盟院所職員は会費に含む]

**参議院選挙へ行こう!!**  
6/22日公示  
7/10投票

# 「日本の若者に血を流させる」安倍「改憲」の狙いを許さず

6月4・5日、県連拡大医師部合宿が上諏訪温泉浜の湯で開かれました。八王子合同法律事務所の白神優理子弁護士が「安保法制の危険な本質と安倍政権の狙い～国民運動の展望と医師に期待すること～」と題して講演し、一般職員を含めた約70人が耳を傾けました。講演要旨を紹介します。



講演する白神弁護士

## 「安保法制」の先には 経済的徴兵制

現憲法の原点は戦前の「死は鴻毛(大きな鳥の羽根)より軽し、天皇に命をささげると侵略戦争に駆り立て、多くの犠牲者を出した事を深く反省し、二度と戦争をしない」国家の上に国民があり、国民の権利を邪魔してはいけない(憲法13条個人の尊重、立憲主義)を決めた事にあります。

強行された「安保法制」は、①アメリカの戦争に全面的に加担する体制、②自衛隊が海外で戦争する事を根拠つけた法制で、重の意味で「戦争法」です。成立にあたり安倍首相が「憲法解釈の最高責任者は私だ」と真向から「立憲主義を否定」したことは大問題です。そしてこの間、国民の知る権利を制限(秘密保護法)、政府に都合の悪い報道の規制や教育を統制し、若者の自己肯定感喪失と社会への順応(思想統制)を進めています。さらに、軍事予算を戦後最大の5兆円を突破させ、社会保障削減と貧困拡大政策(労働法制改悪で経済的徴兵制を準備しています。政府の「存立危機事態」発動で、医療施設や医療物資、医療従事者も徴発徴用できることになりました。

## アメリカ・財界・安倍首相の狙いは「改憲」

そして狙うは「改憲」です。アメリカの世界市場征服のおぼろげを貫くために「世界の憲兵として、日本の若者の血を流させる」「日本の財界が世界市場で儲けるために「日本の若者に血を流させる」という財界の願いと安倍首相の「大國美しい日本」、その中身は「トップがいて、従う国民がいてアジアを支配する」という願望を実現するための「改憲」です。

自民党の憲法草案では、11条で人権の永久不変性を削除し、12条で権利の「乱用」を禁止し、公益国家のために従うことを盛り込み、13条で「個人の尊重」を削除しています。これにより、国がすべての人権を制限し、人権は国が認める範囲内のみとなります。そして102条で「すべての国民は、この憲法を尊



さわやかな講演でしたが、中身は辛辣でした。特に印象に残ったのは、法律家は13条が大好きだという話でした。13条は個人の尊重です。この条文こそが権力者から個人を守るもの。安倍首相の安保法(戦争法)も改憲案も、個人の上に国家や権力者があると指摘されました。今度、憲法を勉強し、安保法廃止、改憲阻止を!

## 戦争と対極にある医療者のみなさんへ

この重大事態に学生やママ、学者や文化人など国民の各層で、職場や立場の違いを乗り越え「戦争法」を廃止し、立憲主義を取り戻すた、たかひが史上空前の規模で広がっています。

医師のみなさんは、日々たくさん患者さんと接し、その影響力は弁護士に比べてはるかに大きい。戦争に協力させられた痛恨の歴史を持ち、戦争に真向先で徴用される人びとであり、最もいのちを大事にし、戦争とは対極に位置しています。戦争法廃止のために多にその力を発揮してもらいたいと思います。



白神弁護士の講義内容はわかりやすく、普段あまり認識していなかった「憲法」というものが、いかに自分を含む国民生活と密接なものであるのか改めて深く理解でき、国民としてしっかり監視し、声を上げる必要性を痛感しました。白神先生のように、自身の仕事を社会貢献のこの国の未来のために、使えよう努力したいと思いました。

メインスピーチの本間信和さん(SEALDs)は「民主主義は国民一人ひとりが主人公、観客席も応援席もありません。ここにいる一人ひとりが行動を起こしましょう」と呼びかけました。杉尾ひでやさんとのトークは学生生活から報道の自由まで多岐にわたりました。



「平和といのちと人権を6・12長野県民大集会」(長野市・ひまわり公園)に2700人



長野駅まで延々と続くパレード。ゴールの長野駅では安倍首相の街頭演説と鉢合わせというハプニングも▶  
◀「戦争法廃止」を掲げる参加者



**切開** 「女の子を馬鹿にしているのか」自民党の18歳選挙の漫画ハックに批判の声が上がっています。女の子が憧れの優秀な男の子と付き合う為に「一緒に選挙に行く決意をする漫画です。自民党の男尊女卑的な発想や「軽すぎる」とこへの批判ですが、この内容で若い人が選挙に行く気になるか疑問です。そもそも高校生の政治的活動を規制しながら、選挙にはいきましようという発想が理解できません▼個人や団体が自分たちの政治的要求を実現するために、積極的に社会の仕組みや各政党の政策を学び、運動し、政党や議員に働き掛ける、そして選挙でも議員を選ぶ、こういう経験が主権者意識を育てるのだと思います。政治的な活動は積極的に保障こそすれ規制すべきではないと思います▼強行された「戦争法」、2000万署名とともに政治的関心は国民的規模で高まり、国民的運動へと広がり、野党共闘も実現しました。「改憲」ひた隠しでアベノミクスエンジン空ぶかしして票を掠め取るうとする自民党政権、対して国民の声で政策を豊かに発展させる野党共闘、高まった政治的関心を必ず選挙に結びつけ、安倍政権を退陣に追い込みましょう。(藤)



# NO WAR! 平和憲法守る私の声 29

大池 啓子 東信医療生活協同組合・看護部長

「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されて2年目になり、臨床ではこの研修を修了した看護師が仕事をしているそうです。

昨年参加した研修会で、超高齢多死社会を見据えた、主に在宅現場での医行為をするための制度であり、そして「この制度が医療提供の枠組みそのものを変えて、戦争をする国づくりの動きとも関連し、有事の際の『処置の手』として侵襲性の高い医行為を行う看護師の育成を進める方向性とも考えられる」と聞いた時の衝撃は、忘れられません。

川嶋みどり先生の講演で、日本赤十字の看護師養成は、戦場で傷病人を救護することを目的に始まり、看護師にも召集令状がきて派遣されたそうです。そして、従軍看護師として3回戦場に行った花田キミさんの言葉を紹介してくださいました。「戦争をしないために、巻き込まれないために盾として、平和憲法の第9条を守る」こと。戦争を体験している世代の方のお話しにはいつも胸をうたれます。看護の実践は平和あってこそ実現するもの。いのちを危険にさらしてはいけない、これを受け継いでいくことが、私たち看護師の役目だと思います。

「このままではいつか日本は戦争に巻き込まれる」「戦争への道だけは阻止しなければいけない」「悲劇は二度と繰り返されてはならない」専門職としても「戦争法反対」の声を上げ続けなければならないと思います。

誰もが生まれてきてよかったと思う生をまっとうできるように支援するものとして、憲法が生かされ、いのちを守ることは使命です。

## あはざ



\* フランク・ロフターによる、EPAのファンズによる運動への抗議の意も込めた寓話(1998年発表)。

# 手にした1票は安倍政治へのレッドカード!

## 自分たちの未来は自分たちで!

6月11日、「いなっせ」前で「信じられる未来をSEALDsと語ろう!」の集会を行いました。元々は事業所内の学習会としての企画でしたが、上伊那地域の高校生、教員などを含めた実行委員会に発展し、「信じられる未来プロジェクト」を結成。準備期間1か月の間に構想が膨らみ、SEALDsの本間信和さんを招いて、約80人参加の集会に!

本間さんは7月10日参院選に触れ、「投票に行くだけじゃもったいない」と選挙活動にも積極的に参加する意気込みを熱く語ってくれました。リレートークに参加の高校生からは「自分たちの未来を自分たちで考えたい」という発言や、市民・野党統一候補の杉尾さんからメッセージが寄せられました。

スタンディングと講演の後、全体でホール内コール!国会前でおなじみの「民主主義ってなんだ!!」「これだ!!」が上伊那の空にこだまするのを聴きながら、選挙への意識を高めました。



杉尾事務所にて

## 候補者事務所&政党訪問で医療・介護・平和への要望を熱く

長野地域連絡会の職員社保委員会は、6月17日、参議院選挙候補者及び政党事務所を訪問しました。

37人の参加者は、野党・市民統一候補の杉尾ひでやさんの事務所と、共産党、社民党の3か所に分かれて訪問しました(自民党の若林候補事務所からは訪問を断られました)。

参加者は医療・介護・平和の要望や職場でつかんでいる事例、身近な知り合いの実情などを熱く語りました。杉尾事務所の原田事務局長は「考え方に大きな差はない。実現させていきたい」と共感を寄せてくれました。共産党・社民党とも質問に誠実に答え、平和憲法と社会的弱者支援の視点をもって野党統一候補を支えていくと語られました。

参加者からは「生の声を聞き、伝え、政治を身近に感じられた」「選挙に必ず行く」と決意した「自分もできることを手伝いたい」など、積極的な感想ばかりでした。



諏訪赤十字病院大橋副院長の挨拶

6月1日、南信助医協「諏訪共立地域連携相談センター」が開所しました。地域連携センターは、地域福祉相談室を統合し、看護師MSW事務職計6人を配置した総合的な相談窓口です。地域に開かれた窓口として、法人の施設に限らず、地域のさまざまな施設や行政組織医療機関と今まで以上の連携を取りながらそれぞれの特徴を適切に有効利用できるような職種が専門職として役割を担っていきます。

### 新事業所

## 東南西北

### 長野



御社祭の里曳きが6月14・16日に開催され、当法人も御宿を設け地域のみならず、観光客をもてなしました。青年J日労組青年部は合同で焼きそばを販売し、3日間で50人の職員が持ち回り約600食を売ることができました。新入職員も多く、初めての御社祭雰囲気と同僚や先輩との交流を楽しんでいます。



### たんぼぼ祭り開催

6月5日、晴天の下、第4回たんぼぼ祭りを開催しました。100人を超える来場者で、喫茶や華やかな舞台模擬店からは焼きそばや餃子の食欲をそそぐ匂いが漂い、小さな事業所内はハンカチ争奪戦のほどに盛り上がりました。楽しいひと時を利用者さんや地域のみならず、過ごし支えられていることに感謝しました。

## 選挙後に計画されている『介護保険大改悪』

介護保険制度改善の介護ウェブが始まり約8年が経過します。この運動は、利用者さんに言われた一言から始まりました。ある日のトイレ介助で、普段小さい尿とりパットで十分な方が、「大きなパットをあてて」と。「なぜ?」と返すと「職員は忙しいから私だけでも我慢すれば他の人の所に行ける」と。私たちは利用者さんにそんな思いをさせていたのか、何とかしなければと、制度と処遇改善を柱に有志の会で始めました。



介護ウェブ委員会がポスターを作りました

この間、多くの職員が国会へ要請に行きましたが、「要支援者はずさないでください」と言う秘書が「生活保護制度の事ですか?」と聞く始末。あきれと怒りがこみあげました。

選挙になると国民受けする公約を掲げ、勝利すれば自分達向けのものへ変える安倍政権。今回は消費税増税見送りなど、公約を変化させています。

しかし、すでに2018年介護保険改定案が検討され、利用料は一律2割負担・保険料値上げ・保険料徴収年齢の引き下げなど改悪を推し進めようとしています。政治家本位で他国のいいなり日本をなんとしても変えるため、力を合わせましょう。

## 若年層にも及ぶ『貧困と格差拡大』



反貧困ネット長野による年越し支援

「治療費や薬代が払えない」「明日の生活がどうなるかわからない」。こういった相談を耳にする機会が、最近ますます増えたように感じます。

貧困と格差の拡大は高齢者のみならず、若年層にも及んでいます。決して他人ごとではなく、だれでも疾病・失業等を機にたちまち貧困に陥ります。また、貧困が世帯で受け継がれ次世代を担う子供の貧困も社会問題になっています。安倍政権の推し進める非正規

雇用の増加、社会保障費の削減等の影響は生き辛さをさらに加速させているように思います。住み慣れた地域で暮らすことすら放棄せざるを得ない社会になりつつある今、現実を目をむけて貧困と格差を断ち切るために実態を伝えていく必要があります! 各々が持つ1票で!

都合の悪い事はすべて「強行採決」で押し通し、「国民のみなさまに丁寧に説明申し上げる」としれど時間稼ぎ…安倍政治に国民生活は破壊され、「戦争法」で命の危機まで迫っています。安倍政治の一端をまとめました。

## 『診療報酬改定』は医療費抑制政策の道具

安倍政権は、「骨太方針」で打ち出した社会保障削減のため、2016年診療報酬改定を医療費抑制政策の道具として使ってきました。全体で-0.84%のマイナス改定です。

その特徴は、急性期から慢性期にいたるまで各段階で「病院から在宅へ」の流れを、今まで以上に強引に進めた点です。とりわけ、「急性期医療を行う一般病棟7対1看護の病床数縮め出し策」は露骨です。医療度と介護度の重症割合=「看護必要度」を今までの15%⇒25%(1/4以上は重症者がいる病棟)以上にしなければなりません。

これは、「中小病院」にはかなり厳しい内容で、地域包括ケア病棟(病床)や10対1看護への転換を行わざるを得なくなります。「看護師体制の少ない病棟への誘導」で医療費を抑えるやり方は、医療の提供側、受ける側のどちらからも望まれません。



診療報酬学習会(健和)

私たちは、医療や介護の現場が、安倍政権や厚労省の机上の理論で「ズタズタ」にされていく流れを許すことができません。みんなで投票に行き、政治を変えましょう。

## 『消費税』は医療機関の経営を直撃

2015年度の長野中央病院の消費税負担分は2億8000万円でした。この消費税が10%に引き上げられると負担額は3億5000万円となり、7000万円の負担増です。

病院は、医療材料や薬剤・食材を仕入れる際に消費税分を含めて購入します。しかし、保険診療は診療報酬により価格が決まれているので、材料費などに支払った消費税分を患者さんには転嫁できず、この消費税分は医療機関が負担します。

長野中央病院の2015年度の経常利益は4900万円でしたが、消費税が10%なら赤字になってしまいます。

消費税が導入されて以降、社会保障は改悪され、患者負担は増えました。医療機関の経営をも直撃しています。消費税は廃止を視野に入れて縮小すべきです。

## 東南西北

### 飯伊



熊本へ介護支援 ゆの里から3人の職員が4月21・23日熊本県の老人福祉施設へ支援に向かいました。食料・食器類・オムツ類、生活用品などの支援物資を届け、現地では、物資輸送の炊き出しを行いました。物資の確保や精神的ケアとともに、現場の状況に1対1に対応できるように、今後も「ワーク」が大切であると感じました。

### 上伊那

#### 開設時から楽しく交流

デイサービスあおほは、今年で3年目を迎えました。開設時から近隣の小学校と交流してきました。合鴨風船ハッピーを児童が企画し、春には花委員会が育てた花を贈呈してくれました。7月には学校ミニ音楽会を開催してくれました。これからも良い交流を続けていきたいと思えます。

### 東信

#### 健康のつどい、盛大に開催!



6月4日恒例の川西生協診療所健康のつどいが開催されました。開設20周年の節目の年ということで、136人が参加しました。記念公演は諏訪湖八幡神さんによる落語で会場は笑いの渦に巻き込まれました。有志の発表や職員の真田丸にかけた寸劇も好評で、来年もまた元気に見たいという声も聞かれました。

### 中信

#### 全職員で方針実現へ

塩尻協立病院は5月26日に全職員方針集会を行いました。中村靖事務局長から今年度方針が説明され、リハビリ科外来、医療福祉相談室から職場方針が発表されました。古川安之院長は「これからの医療、介護サービスに自信を持って取り組むことを行きたい」と呼びかけました。全職員で方針の実現に取り組みます。



### 諏訪

#### 御宿でもてなし



御社祭の里曳きが6月14・16日に開催され、当法人も御宿を設け地域のみならず、観光客をもてなしました。青年J日労組青年部は合同で焼きそばを販売し、3日間で50人の職員が持ち回り約600食を売ることができました。新入職員も多く、初めての御社祭雰囲気と同僚や先輩との交流を楽しんでいます。



# 全国からのべ700人の 民医連職員が熊本支援へ

熊本市益城町を震源に震度7の地震が4月14日、16日に発生、余震も続いています。いまだに避難生活を送る人も多く、避難生活の長期化による健康被害、疲労は深刻です。

全日本民医連からは、のべ700人以上が支援に入り、長野県からも医師看護師を中心に12人が支援に入っています。参加した2人の職員に状況を報告してもらいます。

## 被災しながらも 頑張っていた職員

震災後2週間経つてからの支援でした。私はくわみず病院の病棟で夜勤支援をしました。入院患者さんは、やっと落ち着

き夜も眠れるようになったと言っていました。壁にはあちこちヒビが入っていて、ドンツと小さな地震が何度もありました。昼夜仮眠をとついても地震で目が覚めます。食事の食器はプラスチックで、飲み水はペットボトルからでした。

職員の方も被災していて、子どもを実家に預けたり車中から出勤したり、大変な思いをし

ながら、いつもの看護をするためひたむきに働いていました。「あきらめない看護」はここにもありました。

## まだ多い 車中泊の 避難者

5月29〜31日、熊本のくわみず病院に震災支援に行きました。

支援の内容は、当直救急車対応予約外来でした。震災直後に比べると

かなり落ち着いているようでしたが、「避難所を移動しているうちに薬をなくした」「夜中に急に震えだして止まらない」など、震災の影響を感じました。

被害の大きかった益城地区では、まだまだ車



中泊をしている方も多く、今後も健康への影響は続くと思われま。病院職員の中にも避難所から出勤されている方もいるとのことであり、今後も継続して支援が必要だと感じた3日間でした。

